

「四季彩る城山」を めざして

城山まもりたい

城山にぎやかな声が

11月8日、鹿野城跡公園ににぎやかな声がこだましました。地域からたくさんの方が集まり、城跡公園に植わっている樹木の管理や、新しい苗の植栽などに取り組んだのです。その活動の中心になるのが「城山まもりたい」(代表…佐々木豊さん)です。

城山まもりたいは、地域のシンボルである鹿野城跡の城山を、美しく保ちたいと思う鹿野の人たちが集まって、平成20年6月に結成されました。きっかけは、鹿野城跡公園

が地域の宝であるにもかかわらず、鳥取市の都市公園に指定されていないため、清掃や植栽の管理をする組織がなかったことです。

「鹿野はまちおこしが活発で、街並みもきれいに整備されてきました。ところが、城山は置き去りにされているような気がしたんです」と山川武彦さんは、当時の心境を語ります。そうした状況の中、地域のみなさんが呼びかけ合って、準備会を開き、城山を守るための計画を練りました。発足時には43人が集まり、「城山まもりたい」として、



山根 やよい さん
Yayoi Yamane

山川 武彦 さん
Takehiko Yamakawa

地域や公民館、行政の協働のもとに活動を始めました。山川さんは事務局長として会をリードすることに。

桜を助けよう

まずは実態調査を行いました。森林の専門家である、鳥取大学農学部の本福壽教授を招き、現地を調査し、自然環境と景観の保全のための計画を立てました。

山の南側や西側は自然林が残っており、手を入れなくてもそのままで大丈夫と判断し、立ち枯れや雑草が多い北側の部分を中心に、景観の保全を

行うことにしました。

また、花見の名所として名高い城跡公園は、桜の老木が増えていたので、樹木医の吉岡武雄先生を招き、木の診断を。結果、テングス病にかかっていたり、栄養が足りなくて自生力が低下したりしていることがわかりました。

そういった木を取り除き、新しい苗を植えるとともに、弱っている桜の木に施肥をする計画を立てました。

たくさんの人を巻き込んで

樹木の管理や雑草の除去、掃除などの活動は、年3回、



桜の木を元気にするため、肥料を埋めています

さじアストロパークの大目玉望遠鏡で星を見る体験をされたことがありますか？ 実は、天体望遠鏡で見る星たちは、上下が逆になった倒立像なのです。気付かれたでしょうか？ 実際に月を見るとよくわかります。

天体望遠鏡で見る星の多くはとても暗く、中にはかすかな「光のしみ」程度にしか見えないものもあります。この光を失ったり減少させたりしてはならないので、使うガラスの量をできるだけ少なくしてあるのです。

具体的に失われる光の量を測定すると、1枚のガラスの表面で4割にもなります。レンズにはガラスの表面が2枚あります。従って、レンズが1枚あるだけで光の量は96割のさらに96割、つまり92割に減少するのです。そこで、レンズの数をできるだけ少なくするよう努力が重ねられ、天体を見るのに上下が逆になっても一向に差し支えないことなどから、逆転した像、倒立像のままで使われているのです。

一方、地上などを見ることを重視した地上用望遠鏡は、倒立像ではとても具合が悪いですね。しかも、光の量も夜間の使用以外ではあまり問題にされません。こうした理由で、地上用望遠鏡ではレンズを増やして正しく上下方向にした像が見えるようにしてあるのです。

手軽に使えることから人気の高い双眼鏡は、大きいものでは観光地に設置されるようなものや、漁船などが魚群を探すときに使うもので多くの種類が作られ、使われています。

映画などで双眼鏡を使うシーンでは、視野が2つの円形であらわされることがありますが、これは最も良くない使い方で、円形が1つになるようにするのが良い使い方です。さじアストロパークの研究員に、良い使い方を習ってください。



終わったあとはみんなでイノシシなべをいただきました

芽吹きの中、梅雨明け時、落ち葉散る秋に行っています。

山川さんによれば

「現在のメンバーは50人ですが、実際の活動では、メンバー以外にも、地元の子供、中学生にも声をかけます。鳥取大学の学生たちも、いつも来てくれるので、総勢100人くらいになりますよ。この活動が、いろんな人のコミュニケーションの場になればと思っています」

です」とのこと。まさに世代間交流の場。

さらに、次の世代につなぐことも意識しています。

副代表の山根（やまね）さんによれば、「小学生には、シバザクラを植えてもらいます。そうすると、ちょうど中学校に進学した時に、自分が植えた苗が大きくなる」と話します。山川さんも、「大人だけでなく、子どもたちも活動することで、鹿野に愛着を持ってくれるはずですよ。そうやって世代をつなげていくことが大事だと思っています」と力を込めます。

活動を続ける中で、自然に対する視野も広がってきました。「きれいにするには、とにかく草を抜いてしまえばいい」と思っていました。そうではないんですね。鹿野地域で山野草を楽しむみなさんが、これは大切な花だから抜かないでほしいと、写真を見せながら説明してくださったんです」と、山根さんは話します。

「鹿野力」をつけよう

鹿野では、2年に1度、鹿野祭りが行われます。「鹿野祭りは、世代間交流の場でもあります。普段は交流のない

人たちが一緒に祭りに取り組むことが、鹿野のまちづくりが盛んな理由ではと考えています。そんな『鹿野力』を身につける行事の一つに、この城山まもりたいの活動もしていきたいと思っています」と山川さんは、未来を見据えます。

鹿野町のキャッチフレーズである「四季薫るまち」にあやかって、「四季彩る城山」をめざす城山まもりたい。鹿野を愛する人たちの思いを一つにして、さまざまな世代の人々がともに取り組む活動は、鹿野地域を活性化させる大きな原動力となりそうです。